Fukushima Association of Corporate Executives
ふくしま経済同友
2015.7 No.7 夏号
福島経済同友会

□最近の活動状況

【第28回全国経済同友会セミナー】
—4月16日(木)～17日(金)　金沢市—

全国経済同友会セミナーが4月16日と17日の2日間、石川県金沢市で開催されました。今年の総合テーマは「戦後70年。地域活性化で日本の再生を。」と題し、北陸新幹線開業の年の開催となり、全国の経済同友会から約1,350名と過去最多の会員･関係者が参加、福島からは浅倉代表幹事、渡部代表幹事、阿部代表幹事を始め8名が出席しました。

開会挨拶で柏木斉セミナー企画委員長から「地域に根ざした活動をしてきた我々が地方創生の担い手となり、人口減少の克服へ何をするか具体的に考えるべきだ」と挨拶されました。

安宅建樹金沢経済同友会代表幹事と谷本正憲石川県知事の歓迎挨拶の後、近藤誠一前文化庁長官による「21世紀：日本の再生、世界への貢献と地方の役割」と題した基調講演が行われました。「活力となるのは国ではなく都市である。固有の文化を持つ地方都市が個人の創造性を発揮できる環境を整えるべきだ」と述べられました。

今年の分科会のテーマはそれぞれ「地域社会の持続的な成長に向けて」「出生率UP・日本の次代の担い手をどう育むか」「日本を訪れる外国人旅行者を増やそう」「日本の精神性・匠に学ぶものづくり」として開催されました。

翌17日は初日の分科会報告の後、長谷川経済同友会代表幹事より「人口減少に伴い、企業の生産性を向上させることが不可欠。日本は人材資源をフル活用して経済成長する必要があり、教育制度改革や企業・地域の次代を担うリーダーを育成するなど、様々な課題に企業や自治体、地域社会が連携して取り組むべきだ」とセミナーを総括されました。

続いて、作家の村松友視氏による「金沢の不思議」と題した特別講演が行われ、金沢の街に息づく独特の伝統や文化の魅力を紹介されました。

来年の全国経済同友会セミナーは4月14日と15日の2日間、岡山県岡山市で開催予定です。全国の同友会メンバーと交流する絶好の機会ですのでぜひ多くの会員のご参加お願いいたします。

歓迎の挨拶をする安宅建樹代表幹事

「盆正月」でおもてなしをする芸子衆

第1分科会の様子

特別講演会の様子

【第6回朝食懇談会】
—4月8日(水)　ザ・セレクトン福島—
講　師　福島市長　小林　香　氏
テーマ　「みんなが誇れる県都ふくしまを創る」
参加会員数　42名

講師　小林市長

○東北第2の都市に

中国が世界的にGDP第2位になった要因は人口です。やはり人口というのは経済発展の基盤です。私は市長になる前から、福島市を40万人都市にしたいと訴えてきました。現在、福島市は中核市ではありません。福島県内をみると、郡山市といわき市が中核市になっています。中核市になることによるメリットの一つに、県にある権限の2,000程度が福島市に移譲されることが挙げられます。独自の条例や基準などを設けることが可能になることから、市民の皆さん方の要請に応えることができます。そういった観点からも早く中核市に移行したいと考えています。

○いのちを大切にするまち

東日本大震災からの復興と発展が、福島市にとっては極めて重要です。今、重点施策の一つに「いのちを大切にするまち」を掲げて除染の加速化を図っています。住宅除染は3月1日時点で計画件数約9万5千件のうち約54,800件約57%が終わっています。現在(4/1時点)では約60%になっています。当初の計画では、住宅除染は平成28年9月末に終了予定でしたが、9カ月短縮し今年末には終わらせる予定です。福島市が「安全で安心して暮らせるまち」、「安心して生産活動が行えるまち」だと示して参ります。

次に健康チェック体制強化の一環として平成23年度からガラスバッチによる測定を行っています。平成25年度に続き平成26年度の3カ月平均で0.11ミリSvでした。これを年間に換算しても0.44ミリSvということで、95.57%の方の年間積算線量推計値が1ミリSv未満になります。この他にホールボディカウンターによる内部被ばくの検査も行っていますが、対象者28万4千人のうち受検者9万3千人と約33%の方が受検しており、全員が1ミリSv未満です。

食品チェック体制の強化については、初期段階から内部被ばくを防ぐためしっかりと行っています。お米は一袋ごとに検査を行っており、平成26年産米は基準値のキロ当たり100Bqを超えた袋は1袋もありませんので、福島市のお米はすべて安心して食べられます。また水道水についても、検査結果はすべて検出限界値(1Bq/kg)未満でした。この「ふくしまの水」の安全性を対外的にPRできないか、そして客観的に評価できないかと思い、平成26年10月にベルギーに本部があるモンドセレクションに出品したところ『金賞』を受賞しました。「ふくしまの水」は安全でおいしいということが、世界的にも評価されたことをとても嬉しく思います。

○くだもののおいしいまち

4月からスタートしました「ふくしまデスティネーションキャンペーン」により、全国から多くの方が福島市を訪れています。花の名所として有名な「花見山」は、この時期多くの観光客で賑わいます。この観光客を市街地に呼び込むため、また、福島のおいしいくだものをPRするためにご当地メニューを創出したいと考え、「福島市産リンゴ」を使用したスイーツコンテストを企画し平成26年度に実施しました。日本を代表するシェフやパティシエの方々に審査していただき、入賞作品を商品化し、市内飲食店や温泉旅館において提供したところ大変好評でした。

講演風景

○環境最先端のまち

東日本大震災による原子力発電所事故に苦しむ福島市としては、原発に頼らない社会の実現に向けた再生可能エネルギーの普及に力を入れています。4月には、「四季の里」に小水力発電施設を新設しました。これは、福島市飯野町にある会社が造ったものです。この会社は、小水力発電の分野において国内トップクラスの企業です。そうした素晴らしい会社が福島市内にあります。地元の技術・水を使って発電するという再生可能エネルギーを、一番望ましい形で実現できたことを大変誇りに思います。

○可能性を秘めたまち

福島市の観光資源の1つに、8月に全面オープンする「じょーもぴあ宮畑」や「民家園」といった文化財があります。また、福島市内には民家園だけでなく、現在、実際に住居として使用している国指定登録文化財の建物もあります。このような民家園や国指定登録文化財の家屋は、近隣の都市には少ないため、福島市にとって観光面での強みとなります。これらの文化財をブラッシュアップし、PRして参ります。

平成29年度には、東北中央自動車道の開通や相馬福島道路が一部供用開始となるなど、利便性が更に高まることが期待されます。これを福島市の活力の創出に最大限活かしていきたいと考えています。

また、平成28年度には福島医科大学内に「ふくしま国際医療科学センター」が全面稼働予定ですので、この立地を活かし福島市に医療系の企業を数多く誘致していきたいと考えています。福島市には充実した企業立地助成制度がありますので、多くの企業に活用してもらえるよう、福島市の優位性を全国に向けてPRして参ります。

ご清聴ありがとうございました。　（文責　事務局）

会場風景

□事務局だより

平成 27 年 4 月～ 5 月に入会・変更のありました会員を紹介します。（敬称略）

会員交代		平成27年4月交代 神谷（かみや）　英樹（ひでき） 大和証券（株）福島支店 支店長		平成27年4月交代 鶴丸（つるまる）　直久（なおひさ） SMBC日興証券（株）福島支店 支店長
		平成27年4月交代 野原（のはら）　邦亮（くにあき） 野村證券（株）福島支店 支店長		平成27年4月交代 村田（むらた）　文雄（ふみお） 福島県信用保証協会 会長

（平成 27 年 6 月 24 日現在　会員数 77 名）

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。

編集日誌

◇山や海の温泉地に行くと、精神的にさわやかな気分になります。

◇これは普段と違う環境で人間の五感が刺激を受け、自律神経の中枢に作用しておこるもので「転地効果」と呼ばれています。この効果は５～６日で活発になり１か月を過ぎると薄れてしまうそうですが、１泊２日でも効果を得ることが出来るとのこと。

◇福島には自然環境に恵まれた温泉地がたくさんありますので、ジメジメした梅雨の時期、温泉に入ってリフレッシュしてみてはいかがでしょうか。（今野）

□会員企業紹介 【第7回　株式会社山水荘】

今回は当会の常任幹事を務めていただいている、株式会社山水荘の渡邉社長にお話をお伺いしました。観光産業が時代の流れとともに「団体」から「個人」へ変わってきたことや、今後、地域活性化につなげるための課題など、様々なお話を伺うことが出来ました。

○自然を生かして

渡邉和裕 代表取締役社長

先代は庭が好きだったこともあり、庭園を自ら造り、山と水の雰囲気の旅館にしたいという想いを込めて「山水荘」を名付けたと聞いています。

○時代のニーズをキャッチ

昭和34年に全国初の山岳観光有料道路として「磐梯吾妻スカイライン」が開通しました。震災後無料開放となり、以来オートバイ雑誌のランキング上位に選ばれているほど、スカイラインはライダーにとって一度は走ってみたい絶景ロードのひとつです。当館はスカイラインの麓にありますので「バイクに優しい宿宣言」として屋根付きの駐車場を整備している他、ライダーの視点に立ったおもてなしを心掛けています。このプランがブロガーに紹介され、それを見たライダー達が当館を利用するようになり、昨今はインターネットを通して様々な情報が広がる時代だと感じています。

最近、外国人観光客に期待が寄せられていますが、海外では今「盆栽」がブームです。盆栽の代表的な種類の一つである「吾妻五葉松」の栽培において有名な方が福島市におられました。その方の著書が海外で出版されたことが、盆栽ブームを作ったきっかけになったと言われています。震災前は盆栽ファンの外国人が修行にたくさん訪れていましたが、現在は逆にお孫さんがヨーロッパに呼ばれていると聞いています。

福島市にはこのような「魅力（たから）」がありますので、官民一体となり地域の「魅力（たから）」を育てていくことが求められていると思います。また「趣味」という観点で切り口を変えることで新たな観光客を呼び込むことが出来ると考えています。観光客のニーズを捉え、時代に合った情報発信が必要になってきていると感じています。

○エコ温泉地

5月9日に小水力発電所の竣工式を行い本格的に稼働しています。それに加え7月からはバイナリー発電も稼働予定です。これらの発電量を合わせると温泉街全体の電力をまかなうことができます。また余剰電力は東北電力に買い取ってもらい、その収入は温泉街のまちづくりに活用していきます。今後は、小規模ではありますがバイオマスや風力発電も設置し、発電状況など見ることが出来る体験施設を整備し、EVバスで各施設を巡回する見学ツアーも計画しています。自然・環境に優しい温泉地として、また、土湯温泉全体が再生可能エネルギーの教材地となるよう全国にPRしていきたいと考えています。

○「女将」ではなく「若旦那」

NHK「あさイチ」の他多くのマスコミに取り上げてもらい、お陰様で「若旦那プロジェクト」も全国に広まりました。この企画は観光協会青年部と地元の大学生の発案によりスタートしました。それぞれの旅館の「若旦那」がご当地グルメや観光スポットを紹介しているフリーペーパー「若旦那図鑑」は好評ですし、「若旦那」目当てに女性客も訪れています。これからの時代を担っていく若者たちが、自分たちの感性と行動力で新しい風を起こし、自ら学び成長していくことを期待し、今後も「若旦那」の活躍をしっかり見守っていきたいと思います。

住　　所	〒960－2157　福島市土湯温泉町字油畑55
設　　立	1953年2月
従業員数	73名
T　E　L	024－595－2141
U　R　L	http://www.sansuiso.jp/